

**2017年度  
学校関係者評価委員会第1回議事録**

日時：2017年9月26日（火）18時40分～20時00分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者：吉野 たけし氏      小泉 昌広氏      永井 純氏

欠席者：山野 晴雄氏

列席者：八尾 勝      倉持 有希子      中浦 俊一郎      林 恵子      村上 剛

I. 聖書日課 詩編 119章編169節

Tokyo YMCA Daily Message の本日の聖句とその解説を村上副校長が朗読した。

II. 議事

1. 開会のあいさつ

八尾校長より、本委員会の進め方について、第一回の委員会でご意見を頂き第二回の委員会ですそれについての学校側の返答をする旨の説明がなされた。

2. 各委員の自己紹介

出席委員および列席者が近況報告などし、自己紹介を行った。

(1) 永井委員

新しい病院のオープンに向けて準備中。2011年から宮城県の小規模多機能病院をつくる準備もしている。温泉付き病院は、リハビリができ、近隣の一般の方も利用できるようになる予定。

(2) 小泉委員

10月から職場が病院に戻る。

(3) 村上副校長

4月から本校に赴任した。YMCAに務めて29年目になる。

(4) 林事務長

外国人受け入れなども担当している。今年から、EPAの学生が勉強している。10月からはベトナム人クラスがスタートする。

(5) 倉持介護福祉科学科長

毎年、入学して来る学生が変化しているのを感じる。今年度はいよいよ国家試験がスタートするのでその準備している。

(6) 中浦作業療法学科学科長

15年間臨床現場にいた。先日の参加した学会では、学ぶことが多くどの学校も懸命に努力していることが分かり心強い想いになった。今年、国立市の市民祭りに参加し、地域に積

極的に行こうとしている。

(7) 吉野委員

所属する学校は今年80周年を迎える学校で、3校で合わせると750名規模の学校である。最近は、「ハラル食」、「浴風会ファッション」(ファッションブランド)を立ち上げるなど新しいことに挑戦中。「100個の種をまき1個の種が育てばいい」という気持ちで積極的にトライするようにしている。国立地域が地元で、地元のスポーツ活動にも参加している。市民祭りも参加する。

(8) 八尾校長

今年度から、嘱託として学校運営に携わっている。

3. 議長の選出

委員会の規定に従い議長を互選した結果、吉野委員が議長に決定した。その後、議長の司会により会が進められた。

4. 自己点検結果要約版の説明

村上副校長より資料「自己点検結果要約版」を使って要点の読み上げが行われた。

5. 質疑応答・ディスカッション

以下のような質疑応答があり、感想・意見・提案などが述べられた。

(1) 吉野委員

・YMCAの学校は、理念が良い。私自身も学生に安心して薦められる良い学校と思っている。しかし、教育活動と学生募集活動が必ずしもイコールにならないところがある。自分の所属する学校でも感じているが、国家試験対策と学生募集も分けて考えると新しい発想が出るかもしれないと思う。国家試験の合格率が高い年に、学生募集も上がるというような検証はなされているのか。

・学校側の論理としては、専門学校は「技術」をきちんと身に付けて卒業できるということが特徴と考えているかもしれないが、高校生の当面のニーズとは違うのかもしれない。

(2) 永井委員

・先ほどの説明の中で、全国みると作業療法学科を希望する学生は増えているが、本校の希望者は減少ということであれば、YMCAに入学するメリット、YMCAブランドやこの学校の強みをもっとアピールすることが大切ではないか。

(3) 中浦作業療法学科学科長

・大学ブランドに高校生が流れている。

(4) 吉野委員

・栄養関連の専門学校でも大学入学を希望する学生が多くなっている。学校側の論理としては、専門学校は「技術」をきちんと身に付けて卒業できるということが特徴と考えているかもしれないが、高校生の当面のニーズは違うところにあるのかもしれない。

- (5) 永井委員
- ・就職先の側からすると、大学卒も専門学校卒も入職の時は区別していない。給与も同じである。
- (6) 八尾校長
- ・介護福祉科においては、本校の定員充足率が低い原因の一つは、定員80名を長年変更していなことも影響している。もし定員を40名として計算すると今年度は定員充足率は70%を超える値になる。なぜ変更しないかという点、今後の社会的な役割を果たす意味でも、付帯教育（EPAや技能実習生の教育）も充実を図りたいと考えている。そのためには介護福祉科の教員が欠かせないので、財政的な運営を総合的に考えながら計画を策定を工夫している。
  - ・本校の長年の人材養成は効果を上げ、多摩地区の高校生・就職先との関係が深まってきた。地域社会の人材ニーズも非常に高いので、多くの学生がこの道に進めるよう多摩地区を対象にした奨学金制度を来年度からスタートすることとした。この奨学金と東京都社会福祉協議会の介護福祉士修学資金の奨学金の制度を組み合わせると、経済的に厳しい学生も技能を身に付け社会に出て行けるようになる。
- (7) 林事務長
- ・奨学金の広報を始めたばかりだが、新しい奨学金は現在5～6名の申込みがあった。成績に関する条件は設けていない奨学金である（卒業までに40万円）。
- (8) 八尾校長
- ・作業療法学科においては、本校は低学費でしかも短期間で資格習得ができるという特徴がある。教育訓練給付金制度の対象校になることにより、社会人がより入学しやすくなる。対象校になるには、留年・落第が少なく、国家試験合格率が高いという基準があり、その基準に達することができるよう取り組んでいる最中である。
  - ・学生募集減少、その分は他の事業でも補う計画である。財務的には、昨年度も本年のように厳しい学生募集だったが、長期借入金を除くと本専門学校単体で1,100万円程の黒字だった。本年度さらに厳しい状況であるが、新しい事業を加味すると収支ボトムとなり、来年度以降は少し改善していくよう願っており、計画を立てつつある。
  - ・両学科でそれぞれ取り組む課題は違いがあるが、根っこを掘って辿って行くと、広い意味での「教育力」をいかに充実させるかということになる。両学科で学科の枠を超えてスクラムを組んで取り組んで行きたい。
- (9) 小泉委員
- ・先日、高校で介護関係の授業を行ってきたが、高校生に介護自体の認知がないことを感じた。業界のアピールが必要と思う。
  - ・「この専門学校はこんなに楽しいよ」というのを大々的にアピールしてはどうか。「卒業生がこんなにこの学校を愛している」という姿を見ると、高校生も本校に対して心が動くかもしれない。「卒業生も一緒に動いている姿自体がブランド」ということになるのではないかと。学校でイベントなどの企画があれば、卒業生にもっと声をかけて欲しい。先日も後輩のYMCA卒業生と飲みに行きその話になった。学校の教員だけで今以上に何かすることには限

りがあるのではないか。

(10) 八尾校長

・校友会に関しては、より機能する校友会になるべく、来る1月12日(金)に総会を行う予定である。

(11) 倉持介護福祉科学科長

・本校に入学してくる学生が変化している。それに合わせて新しいチャレンジをしているが、次の年にはまた別の学生の特徴が見られ、目まぐるしく対応をしているのが現状である。

・学生の学修の意欲・能力の差が大きくなっている。ボトムアップとトップアップの両方を目指すべきと考えている。より高い志をもった学生を送り出したい。

・業界のレベルアップは、どこかの誰かに頼るのではなく、「YMCAから業界を変えていく」ことができないか。東京都介護福祉会でも卒業生が多く活躍し始めているので、ぜひ、本校の卒業生の力を結集して現場がより良い方向に向かうようにできるようにしたい。

(12) 村上副校長

・10月から日本全国37都道府県にあるYMCAで「ブランディング」が推進される。YMCAの活動は専門学校以外にも地域の社会課題に密着した活動を行っているが、それらに共通した活動理念を多くの人々に分かりやすくし、社会に広げてゆくことを目指している。

『『みつかる』『つながる』『よくなっていく』』がスローガン。YMCAに関わった人が「よくなっていく」、その人の周囲の人々が「よくなっていく」、そして地域社会全体が「よくなっていく」。それが、YMCAの願いのひとつである。学生にもこのことを伝え、将来本校学生が社会に羽ばたいて行って、社会全体を良い方向に変えていくムーブメントに繋がるような人になることを願っている。

(14) 吉野委員

・学生募集にアンケートが有効と感じる。過去に他校で新入生にアンケートをとったら、先生たちが予想していた結果と違う結果になった。ぜひ、YMCAでも「なぜ入学したか」、「どの媒体で学校を知ったか」などアンケートをとってはどうか。紙ではなく、ネットでアンケートを実施したら、よく回答が得られた。ネットのアンケートは筆跡で誰が書いたかわかってしまうなどの問題もなくなる。1回目のアンケートは5月連休後に、2回目は学生満足度アンケートとして年度末に実施。これは授業評価用のアンケートとは別のものという認識で実施している。あくまでも、学生がどうゆうことを楽しいと思っているかを探ることを目的としている。

6. 閉会のあいさつ

八尾校長より、本日の委員の方々のご意見、そしてディスカッションを踏まえ次回の委員会でまとめたいと思っている旨と、委員の方々への感謝の辞が述べられて閉会となった。

Ⅲ. 次回日程確認

2017年11月8日(水) 18時30分～

記録：村上剛